

1. はじめに：本発表で扱う「って」の位置づけと先行研究

➤ 本発表で扱う「って」の位置づけ

本発表が考察対象とするのは、(3)の提題助詞相当の「って」である。

- | | |
|--------------------------------------------|-----------|
| (1) a. 「こんにちは」 <u>って</u> 声をかけられた。 | 格助詞（引用助詞） |
| b. 田中 <u>って</u> 人を知っていますか？ | 格助詞（連体助詞） |
| (2) 今日は午後から雨だ <u>って</u> 。 | 終助詞 |
| (3) a. きょう田中君に会いました。－田中 <u>って</u> どの田中ですか？ | 提題助詞 |
| b. 田中さん <u>って</u> 変な人ですね。 | 提題助詞 |

➤ 「[主題] って [解説]」の[主題]の性質に着目した分析

提題の「って」は、[主題]の性質によって大きく2つの用法に分けられる。（田窪 1989, 2002; 丹羽 2006; 岩男 2008; 日本語記述文法研究会 2009）

▷(3a)：メタ用法 [主題] = 「言語表現」（「と（いう N）は」と重なる）

※日本語では、談話に導入する対象が話し手・聞き手の非共有知識である場合、「って」などの形式でそれを標示することが義務的。（金水 1988; 田窪 1989, 2002）

- (4) A：司会は田中さんに頼もう。
 B：え、田中さん？田中さん {って／*は} 誰よ？
 A：なんだ君、知らなかったのか。田中さん {って（いうのは）／??は}, (…)

（金水 1988:6-7 一部改変）

▷(3b)：非メタ用法 [主題] = 「概念・事物」（「は」と重なる）

「記号を新しく定義する」「自分自身の発見により、記号を定義し直す」（田窪 1989:231）

「Xについて改めて捉え直す（改めて問題にする）」（丹羽 2006:249）

「あるものについて、新しい知識を得たりあらためて認識を深めたりした際に、それを主題として提示する」（日本語記述文法研究会 2009:231）

➤ 「[主題] って [解説]」の[解説]の意味的性質に着目した分析

「って」の[解説]部分は、[主題]の本質的な属性を述べるものであり、事象による[解説]は容認されにくい。（田窪 2002; 岩男 2008）

- | | |
|-----------------------------------------|------------------|
| (5) <u>違くない {って／という言葉は}</u> 最近よく使われるよね。 | <属性>（岩男 2008:57） |
| (6) <u>田中さん {って／は}</u> 変な人ですね。 | <属性>（岩男 2008:61） |
| (7) <u>堅君 {*って／は}</u> アメリカに行ったよ。 | <事象>（岩男 2008:61） |

2. 問題提起

▷属性を述べる文でも終助詞等がつかない、「内容自立の文」(言表行為の側面を捨象しても文内容が内容として自立し得る文。尾上 2014) では「って」はあまり自然ではない。¹

(8) 違くない {?って／という言葉は} 最近よく使われる。

(9) 田中さん {?って／は} 変な人である。

▷事象を述べる文でも文末形式によっては「って」が自然になる。

(10) a. 堅君ってアメリカに行ったんだよ。 (岩男 2008:62)

b. 堅君って確か去年アメリカに行った {?／よね。／でしょう。／じゃん。}

→①「って」の使用可否を説明するためにはモダリティ(文の機能)までを見る必要があるのではないか。

▷[主題]について「改めて捉え直す」とは?

(11) あ、今日の田中さんのシャツって {?花柄／おしゃれ} ですね。

(12) a. (明日提出の宿題が終わっていない子供に早く終わらせるよう指示し、子供は自室に向かう。数時間後、子供の様子を伺いに行く) ねえ、宿題 {?って／は} 終わった?

b. (子供が明日提出の宿題があると言っていたことを思い出し、自室にいる子供に宿題の状況を尋ねに行く) ねえ、この前言ってた宿題 {って／は} もう終わったの?

→②非メタ用法について、「改めて捉え直す」といった記述からさらにもう一步踏み込んだ記述が必要ではないか。

3. 本発表の目的

①「日本語自然会話書き起こしコーパス」²における「って」(全 2388 例)について、文のモダリティと談話展開の観点から観察し、「って」が談話標識として位置づけられることを論じる。

②「って」の用法の広がりや談話標識としての機能の違いという観点から捉える見方を提案する。

以下の議論では特に問題になる非メタ用法を中心に見ていく。

ただし、実際の談話ではメタ用法なのか非メタ用法なのかはつきりしない場合が多い。

(13) M017: それでね、あの、E 大学の F 先生ってご存じ?

(14) M030: テレビはねえ、歌番組とか、は見る。ニュースとか。

M034: ふーん。歌番組って何やってんですか?今。

¹ 「って」が内容自立の文に現れないことは、「って」の文体的特徴(話し言葉らしさ)からは説明できないと考える。「ばっかし」「なんか」なども話し言葉の性格が強い助詞であるが、「田中ばっかしが喋っている。」「田中なんかが学校に来た。」など、内容自立の文にも自然に現れうる。

² 129 組、各 30 分～1 時間程度、全部で約 100 時間分の雑談の文字データを収録したコーパス。多くは共通語を使用した会話であるが、名古屋を中心に収録されているので方言の使用もある。

4. 談話における「って」の使用の観察

4.1 文の表現類型から見た「って」の使用

表1 「って」が現れる文の「表現類型」(日本語記述文法研究会 2003)

情報系	叙述	504(22%)
	疑問	1783(77%)
行為系	意志	0 (0%)
	勧誘	0 (0%)
	行為要求	1 (0%) ³
感嘆		1 (0%) ⁴
合計		2289 (100%) ⁵

➤ 「疑問」のモダリティの例

- (15) M007: え, あれ?国立って, 年間いくらの授業料?
- (16) M007: 札幌なんかでもMAを持ってるさ, 高校の先生っていっぱいいるわけじゃん。
- (17) F162: 早起きってさー, 健康に悪いよねー。

➤ 「叙述」のモダリティの例

「叙述」の中で目立つのは, 以下の2つのタイプの文

▷ 「のだ/わけだ」などの「説明」のモダリティを伴った文 (132 例)

- (18) F040: (…)カバってすごい神秘の動物なんだよ。
- (19) F004: レーザーメスって日本人が, あの一, 開発したんだよ。

▷ 非対話的な「表出」の文 (94 例)

- (20) F130: ふーん。久しくこたつって入ってないな。
- (21) F079: 私, イワシって大嫌い。(そう) おいしなんて思ったことない。

→ 「疑問」「説明」「表出」のモダリティが大半を占めるのは, [主題] について「話し手・聞き手にとってわからない言語表現を提示する」「改めて捉え直す」という行為の表れとして考えることができる。

→ (18), (19)の例で [主題] について「改めて捉え直す」しているのは聞き手。非メタ用法においても, 談話における話し手・聞き手の相互の認識状態が関わる。

³ 行為要求の例: 「まあでも, ねえ, ちょっと, キュー, ラブキューピットって行ってみい, とか言つて。ラブキューピット, ゲーセンなんだって, 大曾根の前にある。」

⁴ 感嘆の例: 「もう, なんってステンドグラスってきれいなんだろうと思ったくらい, きれいだった。」

⁵ 全用例 2388 例から, 文末が判別できず表現類型が特定できなかった 99 例を除いた数。

4.2 談話展開から見た「って」の使用

「って」に特徴的な談話展開は、何らかの点で先行する談話とは異なる観点から新たに「主題」を導入するパターン。「主題」の導入が唐突に感じられるほど、「は」との置き換えが難しくなり、「って」独自の機能が顕著になる。⁶

(22) F048：ウサギは怖い。(＜笑い＞) なんか。

F001：怖いね。

F048：鳴かないし。

F001：うんうんうん。

F048：鳴かない動物ってなんか怖い。

：先行談話の「主題」「ウサギ」をより一般化して談話に導入（「は」ok）

(23) M008：実は F011 さん、苦痛なんじゃないの？

F011：ううん。

M008：僕と生協で食べるの。＜笑い＞

F011：そんなことないよ。そんなことないよ。

M020：生協で。

M008：ほんと毎日ここだったらおいしいと思ってんじゃないの？

F011：別にそんなこと思ってない。高いのに。

M020：生協って混んでますか、夜？

F011：ううん。そんなに混んでないね。

：先行発話にあるが「主題」にはなっていなかった「生協」を「主題」として導入（「は」?）

(24) F138：ねえ話は変わるけどさ、あのレストランって人が入ってると思う？

F085：どれ？イタリアン？

F027：だって車は止まってますよね。

：談話場にある事物「あのレストラン」を「主題」として談話に新たに導入（「は」??）

- ・文の表現類型の観点から見ても、談話展開の特徴から見ても、（非メタ用法においても）「って」の使用には談話における話し手と聞き手の相互の認識状態が深く関わっていることがわかる。
- ・「って」を、「談話の構造に依存した、会話参加者の知識・認識状態に関わる談話標識」と位置づけ、談話標識としての機能の違いという観点から「って」の用法の広がりが見えられ可能性について論じる。

⁶ 先行研究でも「談話の冒頭や話題の転換点で新たな題目を持ち出す場合」（丹羽 2006:255）、「そのとき聞き手の意識のうちにはないと思われるものを導入する発話」（日本語記述文法研究会 2009:232）に「って」が用いられるという指摘がある。

5. 考察：「って」の広がりをおいかに捉えるか

➤ 「[主題] の言語的理解のギャップを示す標識」としての「って」

(25) F001：梗塞ってよくわかんない。

M001：あの梗塞って詰まるって意味だよ。

→話し手と聞き手の間に「主題」に関して言語的な理解（「言語表現」で指示される事物や、「言語表現」の意味に関する理解）にギャップ（不均衡・不一致）があることを示す標識。

➤ 「言語表現」の理解から、「対象の理解」「発話の理解」へ

「改めて捉え直す」ときに用いられるとされてきた非メタ用法の「って」には2種類の異なる談話理解が関わっている。

Tannen & Waller (1993)

：従来「フレーム」という用語で説明されていたものに、「知識スキーマ(knowledge schema)」と「相互フレーム(interactive frame)」という別種のものがあることを指摘。

「知識スキーマ」：事物や出来事に関する知識の枠組み

“Xは、…というものである”

「相互フレーム」：談話場で何が行われているのかを理解するための枠組み

“今談話場で行われているのは…という発話（行為）である”

➤ 「[主題] に関する知識スキーマのギャップを示す標識」としての「って」

(26) 田中さんって変な人ですね。(=(3b))

▷知識スキーマと命題の性質

(27) あ、今日の田中さんのシャツって {?花柄／おしゃれ} ですね。(=(11))

- ・「今日の田中さんのシャツとは～なものだ」という知識スキーマについて述べる発話とは考えにくく、「田中さん」についての知識スキーマについて述べる発話と理解できる。
- ・「田中さんのシャツが花柄である」という事実的な命題よりも、「田中さんのシャツがおしゃれである」という評価的な命題の方が、「田中さん」に関する知識スキーマに変更を生じると解釈されやすく、「って」がより自然になる。

▷知識スキーマと発話態度

(28) F031：すみません、お手ふきっていただけます？

(29) （定食に箸がついていないことに気づき）すみません、お箸っていただけます？

- ・(28)では丁寧な発話に聞こえるが、(29)では皮肉の発話に聞こえる。「って」の引用の性質が婉曲的な言い方につながるといった記述では両者の差異は捉えられない。
- ・両者の違いは「飲食店」の知識フレームにおける「お手ふき」と「お箸」の位置づけの違いを考慮することではじめて説明される。

➤ 「発話の理解のギャップを示す標識」としての「って」

(30) F138: ねえ話は変わるけどさ、あのレストランって人が入ってると思う？ (= (24))

- ・(30)は話し手と聞き手が[主題]「あのレストラン」に関する知識スキーマに関する認識のやりとりを行なっているとは考えにくい。「[主題]を談話場に導入する発話そのものの理解」に関わる例と考えられる。すなわち、その談話文脈において[主題]を談話場に導入することの理解にギャップが生じうる可能性があることを「って」が示している。

(31) a. (明日提出の宿題が終わっていない子供に早く終わらせるよう指示し、子供は自室に向かう。数時間後、子供の様子を伺いに行く) ねえ、宿題 {?って／は} 終わった？

b. (子供が明日提出の宿題があると言っていたことを思い出し、自室にいる子供に宿題の状況を尋ねに行く) ねえ、この前言ってた宿題 {って／は} もう終わったの？

(= (12))

- ・(31a)では「宿題」が話し手と聞き手の両者にとっての関心事である（と話し手が考えるのが自然である）ため、「って」が使用しにくい。

6. まとめ

- ・「って」は本来的に談話レベルで働く言語形式であり、そのことを反映した特徴が文の表現類型や談話展開のあり様に観察される。

- ・「って」は、メタ用法だけでなく、非メタ用法も談話理解に関わる標識として機能している。

「って」の用法の広がり、
「[主題] 言語的理解のギャップを示す標識」 > 「[主題] に関する知識スキーマのギャップを示す標識」 > 「発話の理解のギャップを示す標識」という広がりとして捉えられる。

参考文献

岩男考哲(2008)「「って」提題文の表す属性と使用の広がり」益岡隆志（編）『叙述類型論』pp.45-66.くろしお出版. / 尾上圭介(2014)「文の種類」日本語文法学会（編）『日本語文法事典』pp.558-562.大修館書店. / 金水敏(1988)「日本語における心的空間と名詞句の指示について」『女子大文学 國文篇』39,pp.1-24. 大阪女子大学国文学科. / 田窪行則(1989)「名詞句のモダリティ」仁田義雄・益岡隆志（編）『日本語のモダリティ』pp.211-233.くろしお出版. / 田窪行則(2002)「談話における名詞の使用」『複文と談話』pp.191-216.岩波書店. / 日本語記述文法研究会(2003)『現代日本語文法 4 第8部モダリティ』くろしお出版. / 日本語記述文法研究会(2009)『現代日本語文法 5 第9部とりたて第10部主題』くろしお出版. / 丹羽哲也(2006)『日本語の題目文』和泉書院. / Tannen, Deborah. & Cynthia Waleet. (1993) Interactive Frames and Knowledge Schema in Interaction: Examples from a Medical Examination/ Interview. In Deborah Tannen (ed.), *Framing in Discourse*. pp.57-76. New York: Oxford University Press.